

幅広い世代の人が新しい近所つき合いを求めて共に暮らすコレクティブハウス。誕生から二年の「コレクティブハウスかんかん森」(東京・荒川)は、本格的なモデルケースとして注目されている。コーディネーターである特定非営利活動法人(NPO法人)コレクティブハウジング社の宮前真理子さんに現状と課題を報告してもらった。



宮前 真理子

JR日暮里駅から徒歩十五分。有料老人ホームや保育園などが同居する十二階建ての複合施設「日暮里コミュニティ」の二、三階に「かんかん森」はある。延べ床面積は約二千平方メートル。ワンルームから2DKまで合計二十八戸の賃貸住戸と共同の台所や食堂、リビング、洗濯室などで構成されている。

## 集合住宅で多世代交流



一緒に夕食。当番で作るが、食べるかどうかは自由(かんかん森)

### 「コレクティブ」を实践

な特徴だ。かんかん森は賃貸住宅だが、入居予定者は計画段階から主体的に参加し、共有空間の使い方から暮らし全般のルールまでを決めている。入居後は居住者組合の下

に様々な「マネジメントグループ」を置き、コミュニティの維持・運営を担っている。家族だけでの子育てや介護への不安、核家族化や単身世帯の増加による孤立感の深まりなどに対する解決策の一つとして、北欧発祥のコレクテ

イブハウスに着目して十一年。かんかん森は我々にとって初めての本格的な実践例にあたる。本当に住みたいと思う人がいるのかすらわからないという状況でのスタートだっただけに、いろいろな壁にも突き当たった。

### 「お試し」を開催

「お試し」を開催 コモンミールもその一つ。スウェーデンでは平日は毎晩のように夕食をともにするところが多いが、かんかん森の住人は当初、「同じ釜の飯」を食べることに消極的だった。「みそ汁の味は家庭によって違う」「共同の食事は年数回のイベントで十分」。他人と食事するのは祭りなど「ハレ」の日のイベントとのイメージが強い日本人に、日常的に食事をも

### 孤立しない生活

コレクティブハウスの売り物としては、定期的な夕食をともにする「コモンミール」といった顔の見える近所つき合いが知られるが、住人の自主管理・自主運営も大き

### かんかん森の住民「グループ」。

全員がどれかに入り管理・運営に参加

- ガーデニング(植栽、菜園の管理)
- コモンミールの運営
- お掃除(当番表の作成、清掃用品の管理)
- インテリア(共有空間の家具などの管理)
- 木工(工作テラス、工作用具の管理)
- イベント(居住者組合主催行事の企画)
- IT(インターネット、パソコンの管理)
- ランドリー(洗濯機の予約管理、消毒など)
- 図書コーナーの整備
- アルバム(かんかん森の歴史を写真などで記録)
- 暮らし方全般のルール提案
- 備品台帳の管理
- ペット規約の作成など
- 省エネ・リサイクルの推進
- アビール(ホームページや案内書作成)

## 仲良し強制せず

にする考え方はなかなか受け入れられなかった。そこで三十四人一組で三十人分の食事を作る「お試しコモンミール」を十回ほど実施。全員の理解を得て、なんとか週三日の実現にこぎつけた。もちろん好き嫌いや味の好みはそれぞれ。作るのは当番制だが、食べる食べないは自由だ。献立がカレーライスなら、辛さや具を変えたメニューを数種類用意するなど、なるべく多くの人に楽しんでもらえるように工夫しているが、それでも「私はおさしみが食べたいの」という人は必ずいる。そんな人は自分の家で好きなものを食べればよい。それが、コレクティブハウスのいいところでもある。

### 入居募集に課題

今後の課題としては、空室が出た場合の入居者募集がある。コレクティブハウスに対する知識も理解も乏しい現状では、一般の賃貸物件のように町中の不動産業者に「空室あり」の紙を張り出すわけにはいかない。コーディネーターが入居希望者にコレクティブハウスの目玉「現代の長屋」暮らしが魅力的に映るのは想像に難くない。

な普及のためには、多様な住まいの選択肢に対応して不動産情報を提供する仕組みづくりが欠かせない。かんかん森の見学者は二年間で二千人を超え、我々が考えるコレクティブハウスに対するニーズが日本にもあることは確信できた。シングル層の需要がこれほど多いのは予想外だったが、都市の中で孤立しがちなシングル層の目に「現代の長屋」暮らしが魅力的に映るのは想像に難くない。

周りに誰が住んでいるのかわからない都会の生活への疑問や不安感を抱く人にとって、こうした「コミュニティ」は魅力だらけ。ただ、距離感を誤るとトラブルにもなりうる。居住者は全員知り合いたいが、全員が仲良しである必要はない。この原則を忘れないことがトラブルを防ぐ秘けつだ。幸い、コレクティブハウスは誰にも会わなくても生活が完結できる独立性の高い住戸が備えられている。プライベートな住空間と共有空間をうまく使い分けて、ほどよい距離感を保てれば、これ

この芽をいかに大きく育ていくか。二回目の誕生日を迎えたばかりのかんかん森の住人やNPOの仲間とともに考えていきたい。



### コミュニティー